



平成 29 年 4 月 27 日

各 位

会 社 名 ニッポン高度紙工業株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 山岡 俊則
(J A S D A Q ・ コ ー ド 3 8 9 1)
問 合 せ 先 執行役員経営企画室長 溝渕 泰司
TEL 088 (894) 2321

営業外費用（為替差損）および特別損失の計上ならびに
平成 29 年 3 月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 3 月期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）において、営業外費用（為替差損）および特別損失を計上する見込みとなりましたのでお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 10 月 31 日に公表いたしました平成 29 年 3 月期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 営業外費用（為替差損）の計上について

当社は、平成 29 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間（平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日）において、為替差損 58 百万円を計上しておりましたが、外国為替相場の変動により、第 4 四半期連結会計期間（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）では、為替差損が 80 百万円増加する見込みとなりました。これは、主に海外子会社への貸付金および売掛金等の外貨建債権債務の評価替えによるものであります。

なお、平成 29 年 3 月期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）においては、為替差損 140 百万円を営業外費用に計上する見込みとなりました。

2. 特別損失の計上について

当社は、平成 29 年 3 月 29 日に公表の「関係会社株式の減損処理（個別決算）およびのれんの減損損失（連結決算）による特別損失の計上に関するお知らせ」で開示した特別損失を計上する見込みとなりました。また、平成 29 年 2 月 3 日付の「平成 29 年 3 月期第 3 四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」の重要な後発事象にて記載しておりました連結子会社における災害により発生した損失を特別損失（連結決算）に計上する見込みとなりました。

(1) 関係会社株式の減損処理（個別決算）

連結子会社のフィリピンのパルプ製造会社 Albay Agro-Industrial Development Corporation（以下、ALD 社という）の業績が、買収時には想定されなかった原麻価格の上昇等により経営環境が著しく変化し、当初策定した計画を下回ったことから、同社株式の減損処理をおこない、関係会社株式評価損を特別損失として平成 29 年 3 月期に 1,040 百万円計上する見込みとなりました。なお、個別決算で計上されるこの特別損失は、連結決算上相殺消去されますので、連結財務諸表に与える影響はございません。

(2) のれんの減損損失（連結決算）

上記(1)において、関係会社株式評価損を計上することにともない、ALD 社に係るのれんの減損処理をおこない、特別損失として平成 29 年 3 月期に 470 百万円を計上する見込みとなりました。

(3) 災害により発生した損失について（連結決算）

平成28年12月25日にフィリピン中部に上陸した台風の災害により、たな卸資産等に被害を受け、これを特別損失として平成29年3月期に170百万円計上する見込みとなりました。

・ALD社の概要

名 称 : Albay Agro-Industrial Development Corporation
所 在 地 : 2nd floor Sagittarius Bldg. H. V. dela Costa St. Salcedo Village, Makati City Philippines
代 表 者 : President Orpha M. Noveno
事業内容 : パルプの製造・販売
資 本 金 : 200,000千ペソ

3. 平成29年3月期 通期 連結業績予想数値の修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	14,240	280	50	20	1.86
今回修正予想（B）	15,090	500	340	△450	△41.83
増減額（B－A）	850	220	290	△470	
増減率（%）	6.0	78.6	580.0	-	
（ご参考）前期実績 （平成28年3月期）	11,617	96	129	55	5.20

修正の理由

当社主力製品であるコンデンサ用セパレータは、車載用およびスマートフォン関連機器等の低圧品向け、ならびに、汎用インバータおよびエアコン用インバータ等の白物家電用の中高圧品向けが好調に推移したことにより、売上高が増加し、営業利益および経常利益は前回予想を上回る見込みであります。一方、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記2.の特別損失を計上するため、前回予想を下回る見込みとなりました。

なお、災害による損失については、保険金を付保しておりますが、現時点では未確定でありますので、他の要因を含め業績予想の修正が必要と判断される場合は速やかにお知らせいたします。

（注）上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上